

会 議 録

- 1 会議の名称 令和5年度 妙高市子ども・子育て会議(第2回)
- 2 開催日時 令和5年12月27日(水)午後1時30分から3時まで
- 3 開催場所 妙高市役所 コラボホール
- 4 出席者
  - (1) 委員  
江口香代委員、樗沢秀久委員、佐藤友美委員、丸山瑞穂委員、築田優子委員、江口克也委員、児玉久美子委員(会長)、乗木邦友委員(副会長)、平出正樹委員、飯塚教裕委員(アドバイザー)  
※東條委員、笠原委員、浅岡委員、畑山委員、小川委員(アドバイザー)は欠席
  - (2) 執行機関(事務局)  
塚田教育長、こども教育課 小林課長、余野課長補佐、酒井園指導主事、丸山係長、寺島係長、浅野係長、松岡副参事、長野主査、健康保険課 長谷川係長
- 5 議事
  - (1) 子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果報告
  - (2) 第3次妙高市子ども・子育て支援事業計画の策定について
- 6 会議録署名委員の選出  
委員より意見なく、会長(議長)の一任により、樗沢委員と佐藤委員が選出された。
- 7 発言の内容  
資料により、事務局が順次説明を行った。

<質疑・意見など>

- 1) 子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果報告について

委員 小学校の中・高学年がずっと自宅で過ごしていると、友達と遊ぶことがなければ、ゲームやユーチューブばかりで本当に心配になる。10歳から15歳くらいの、やれば誰でもやれる時に、もっとアクティブに活動できる場はないのかなと思う。学校の先生は多忙なので、地域で手の空いた人たちがボランティアではなく、有償で子

どもたちを見てもらえる場所というものを作れないのかとも思っている。そのようなシステムが出来れば、手を挙げる人もいると思う。

事務局 当市でも、子どもの居場所づくりの必要性を感じているところであり、国の補助制度も進んでいることから、これらの活用を含めて検討していきたいと考えている。

委員 ジュニアリーダーズクラブという、中学生、高校生、大学生のボランティア組織があるが、新井中学校だけでなく、妙高中学校や妙高高原中学校とも連携を取って活動をしていけばいいと思う。

委員 私たちが子供のころは、学校好きなボランティアも沢山いたが、最近は手を挙げる人がいないという話を聞く。

委員 市内のある小学校では、PTAの活動の見直しということで、基本的には、「すべてボランティア制」としている。年度初めに一覧にして、手を挙げた人にその時期になったら具体的にお願ひするような形をとっており、基本的には必要なボランティアは揃っている学校もある。コロナ禍の中で学校の教育活動が大きく見直され、学校と保護者の関わりが二極化している。もっと親が学校に行く機会を増やしてほしいという保護者と、減らしてほしいという保護者がいて、学校としても、教育活動にとって何がいいか考えている。

委員 育児休業を取っても実際に育児ができない父親が非常に多いという内容のテレビ番組があった。男性が育児休業をとる場合は、最低限の家事のやり方を身につけなければならないと思う。第1子の時は、何もできないが、第2子で半分くらい、第3子になると慣れてくる。育児休業の制度を設けるだけでなく、それを活用する場合の研修会の開催などバックアップが必要なのではないか。

事務局 次回アンケートで、育児研修会の質問項目を検討したい。

委員 アンケート回答者について、35歳から39歳、40歳～44歳に比べて、25歳から29歳、30歳から34歳が少ない。この年代が回答しにくい内容ではなかったか。次回に工夫をお願いしたい。また、ジュニアパスについて、子供を連れていないと使用できないが、配布する際に説明してもらいたい。

事務局 アンケートにつきましては、前回との比較を行うため、前回とほぼ同様の全38問となった。ジュニアパスの提示による各種サービスは、「妙高市民の心」家族のきずな応援事業として、親子での外出のきっかけづくりを目的に実施しているものであり、配布時に文書でも説明をしている。

## 2) 第3次妙高市子ども・子育て支援事業計画の策定について

委員 計画において、インクルーシブ教育の視点も取り入れてほしい。子どもの居場所について、子どもが遅くに行って誰か大人が見てくれるところがあって、そこに行

けば宿題ができ、大人が教えてくれるという場所があれば良い。全ての問題は人口減少であり、人がさらに増えればいろんなことが解決すると思う。そのために子どもの環境を重視し、豊かな街を作って、全国に妙高市の素晴らしい政策を発信することで、子どもを豊かにしたいという人が集まると思う。

委員 今回のアンケートでいい結果が出たので、内容について会議形式だけでなく、ワークショップ形式でいろんな意見を出してもらいたいのではないか。

事務局 計画の策定にあたっては、様々な市民の意見をもらう機会を検討したい。アンケートの結果は庁内でも共有する。

委員 今回のアンケートは、自身も子育てしている最中ですのでごく共感できる部分もあり、これらの内容を計画に盛り込んで、より良い内容としてもらいたい。

委員 アンケートの中で、「児童生徒の学習環境」「教育に係る経済的支援」について、「不満」と「やや不満」と回答した人を合わせると2割程度になる。この2割という数値を受け止め、関係者で共有して施策に取り組む必要がある。

委員 子どもが病気になった時に仕事を休めない人がいる。働きやすく、子育てしやすい環境づくりを進めてもらいたい。

委員 病児・病後児保育の申し込み手続きが面倒であるという声が保護者からも多数聞かれるので、改善できないか。

委員 病後児保育の利用にあたっては、複数の書類提出が必要になる。病気の児童を預かるために必要なものであり、保護者の気持ちは理解できるが、協力をお願いしている。

上記に相違ないことを確認する。

令和 6 年 2 月 27 日

氏名 榎 次 秀 久 

氏名 佐藤 友美 